

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3590104042		
法人名	医療法人社団 松涛会		
事業所名	グループホームケアタウン江の浦		
所在地	山口県下関市彦島江の浦町9丁目4番5号		
自己評価作成日	平成30年4月24日	評価結果市町受理日	平成30年10月31日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度ホームページで閲覧してください。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 やまぐち介護サービス評価調査ネットワーク		
所在地	山口県山口市吉敷下東3丁目1番1号 山口県総合保健会館内		
訪問調査日	平成30年5月15日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

理念『地域の中でいきいきと その人らしくゆったりと 楽しく自由にありのままに』を下に、一人ひとりを尊重し笑顔で温かい家庭的な雰囲気でも過ごして頂ける様に努めております。商店・住宅が隣接しており、散歩中や買い物でお会いする近所の方とも挨拶や会話などの関わりをもっています。また、近隣幼稚園からの定期訪問や毎月行なわれるスリーAにも参加しボランティアや地域の方々との交流も築いています。併設医院・訪問看護師との医療連携で心身の健康をサポートし、ご本人ご家族共に安心していただけています。一人ひとりの想いを大切に受け止め寄り添い、ご家族・地域の方々と共に支え合える支援を心掛けていきたいと思ひます。内外研修にも積極的に参加し、向上心を持ち専門性を深める努力を続けています。

職員に多くの研修情報を提供され、職員は外部研修、院内研修、拠点内研修、内部研修など多くの学ぶ機会に参加されている他、個別に自主研修として、認知症ケア、職場での伝える力、コミュニケーションなどに参加されているなど、職員一人ひとりのスキルアップに取り組んでおられます。運営推進会議メンバーの自治会長や民生委員は、年2回の拠点施設合同の昼間想定避難訓練に参加されている他、運営推進会議で地域との協力について話し合われ、拠点施設の連絡網に加入され、拠点施設が災害時の地域住民の避難場所となるなど、災害時の地域との協力体制を築いておられます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～56で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
57	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:24. 25. 26)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	64	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:10. 11. 20)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
58	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:19. 39)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	65	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2. 21)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
59	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:39)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:5)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
60	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:38. 39)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員は、生き活きと働いている (参考項目:12. 13)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:50)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:31. 32)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
63	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:29)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は事業所内に掲示し、毎年、理念の勉強会を行なっている。毎朝、出勤者全員で唱和を行い意識を高め実践に努めている。	地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、事業所内に掲示している。理念の研修を年1回、実施している他、理念に添って職員間で月目標を作り、ミーティング時や月1回のスタッフ会議で振り返り、利用者が地域の中でその人らしく暮らし続けられるよう、理念を共有して実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	保育園児との交流、美容院の利用。 運営推進会議に参加の方の情報により盆踊りに参加している。ボランティアの方の来所、交流も行なっているが日常的交流とは言えない。	自治会に加入し、月2回の清掃作業に職員が参加している。利用者は、月1回、自治会で開催している地域サロン(ウェルカムサンデー)に参加して、演奏会やお茶会、作品づくりを楽しんだり、地域の夏祭りにも出かけて地域の人と交流している。2ヶ月に1回、幼稚園児の来訪があり、楽器演奏を楽しんで交流している他、運動会の見学に行つて交流をしている。保育園児の来訪もあり、生活発表や演奏を利用者は楽しんでいる。年1回、拠点施設で開催している演奏会(二胡やバンド演奏など)に利用者が見学に行つて、地域の人と交流している。ボランティア(スリーA、お茶会、二胡)の来訪時には、運営推進会議のメンバーや地域の人も参加している。近所の美容院の利用や散歩や買い物時に地域の人と挨拶を交わしているなど、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議の中で認知症への理解や支援方法等を話し合っている。参加者の疑問、質問に答え伝えていくように努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	(3)	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	自己評価は職員全員で行い、振り返る機会として意義あるものと認識している。反省点を下に評価を活かして改善に取り組んでいる。	評価の意義について理解に努め、自己評価をするための書類を全職員に配布して、各職員が書き入れた項目について話し合い、管理者がまとめている。職員は評価を業務の振り返りと捉えている。前回の評価結果を受けて、目標達成計画を作成し、全職員による応急手当てや初期対応の訓練として、法人研修の消防署による救急救命法を受講している他、内部研修で誤嚥や感染症予防に取り組んでいるなど、評価を活かして具体的な改善に向けて取り組んでいる。	
5	(4)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議で入居者の状態や様子、行事・サービス等の現状報告、参加者の意見など議事録に残すと共に職員全員へ伝え日々のケアに活かせるように努めている。また、地域の情報を交換して行事への参加につなげている。	新たに民生委員一人が加入し、会議を年6回開催している。行事、活動報告、研修報告、利用者の状況などについて報告し、話し合いをしている。メンバーがボランティア(お茶会や二胡演奏)来訪時にも来所して、利用者と一緒に楽しんでいる。自治会長と民生委員は年2回の火災時の避難訓練に参加している他、緊急時の連絡網に加入し、地域との連携に取り組んでいるなど、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	
6	(5)	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に地域包括センターの職員に参加して頂き情報交換を行なっている。介護保険課とは、介護保険認定の変更申請など相談・連絡に努めている。	市担当者とは、運営推進会議の他、出向いたり、FAXで情報を得ているなど、協力関係を築いている。地域包括支援センター職員とは、運営推進会議時に情報交換をしている他、認知症カフェや地域マップアンケート、年1回の徘徊訓練に参加協力をしているなど、連携している。	
7	(6)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束についての勉強会を行い、拘束をしないケアに取り組んでいる。玄関の施錠は、職員人数の少なくなる夜間帯のみとしている。	身体拘束および虐待の内部研修を実施し、職員は理解をして抑制や拘束をしないケアに取り組んでいる。玄関には施錠をしないで、外出したい利用者とは一緒にでかけたり、気分転換の工夫をしている。スピーチロックについては、その都度、管理者が指導をしている他、職員間でも話し合っている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会を実施し日常の対応や言葉遣い、不適切なケアについて話し合い、虐待防止に努めている。		
9		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在のところ該当する入居者はいないが、必要に応じて支援出来るよう法人内外の研修会に参加している。		
10		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約について十分な説明を行い、理解・納得していただけるよう努めている。		
11	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等からの相談、苦情の受付体制や処理手続きを定め周知するとともに、意見や要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	常に相談・苦情の受け入れ体制は整えている。面会時に日頃の様子をお伝えし、ご家族とのコミュニケーションを取れるように心掛けている。受けた相談・苦情は話し合いを行い運営に反映させている。	契約時に相談や苦情の受付体制、処理手続きについて家族に説明している。面会時、運営推進会議参加時、電話などで、家族からの意見や要望を聞く機会を設けている。車椅子が必要となる利用者の外出時や散歩時の支援についての要望や職員の異動についての説明は事業所だよりに記載しているなど、反映させている。	
12	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的な面談・ミーティング・日常の会話等で職員の意見を聞く機会を設け、業務・ケアに反映させている。日頃より意見を述べやすい職場の空気作りに努めている。	年2回、拠点長と管理者による個別面談を設けている他、月1回のミーティング時や日常業務の中で職員の意見や提案を聞く機会を設けているなど、日頃より意見や提案が出しやすい雰囲気づくりに努めている。車椅子用の褥瘡予防マットの購入や勤務体制、担当制の変更などの提案を反映させている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々に合わせた勤務体制の整備など向上心を持って働ける職場環境の整備に努めている。		
14	(9)	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修を受ける機会を勤務体制の調整を行い確保し、全職員がレベルを上げていくように進めている。	外部研修は職員に情報を伝え、段階や希望に応じて参加の機会を提供している。受講後は月1回の職員ミーティング時に復命報告をし、資料は閲覧できるようにしている。今年度は実践者研修、管理者研修、リーダー研修に参加している他、院内研修への参加者もいる。拠点内研修は、感染症と腰痛体操を実施している。内部研修は、年間計画を作成し、職員が担当者となり、接遇マナー、パーソンセンタードケア、高齢者虐待、身体拘束などを実施している他、職員は公休日に自主研修として成年後見制度、認知症ケア、リーダー研修コミュニケーションなどに参加している。新人研修は法人研修後、働きながら学べるように支援している	
15		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修会などを通じ情報交換を行い、サービスの質の向上を目指すように取り組んでいる。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
16		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人の思い・訴えをしっかりと傾聴し受け入れ、ご本人が安心できる環境を整え、馴染みの環境が生まれるまで、きめ細かな配慮を心掛けている。		
17		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時より、ご本人・ご家族の要望・思い等をしっかりと傾聴し、信頼関係を深める努力をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人・ご家族の必要・希望としている支援と、グループホームでの可能な支援を見極め、カンファレンスを行ないながら、時には他職種との連携を図り柔軟な対応が出来るように努めている。		
19		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活を共にしている家族と考え、いつも同じ視点で見つめ、共に喜び、共に笑い、自然に気持ちが共有できるような関係を築いている。		
20		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族との絆を大切にしながらいっしょに過ごせる時間を作り、日々の生活の様子や体調の変化などを伝え、共に支え合う関係を築くように努めている。		
21	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族と相談し、ご本人が今まで大切にしてきた馴染みの場所・人との関係が途切れる事がないように、外出支援等で継続していくよう努めている。	家族の面会や親戚の人の来訪がある他、年賀状を出す、電話の取り次ぎなどの支援をしている。馴染みの美容院の利用、自宅周辺のドライブなどの他、家族の協力を得ての外食、外出、買い物、墓参り、葬式や法事への出席など、馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	
22		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士の関係を把握し、団欒・食事時の席の位置や会話の誘導など心掛け、入居者同士の関わりを大切にする支援に努めている。		
23		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院時は頻回に足を運び不安の軽減に配慮する。ご逝去で退去されたご家族へも連絡を取り関係が途切れないように努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
24	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人に寄り添い共に生活する中で、ご本人・ご家族の思い・希望・意向の把握に努め、それらが十分に十分に反映されるように職員間で話し合い、ご本人の思いに沿ったケアが出来る様に検討している。	アセスメントシートに家族から基本情報(生活歴、家族構成、職歴、趣味など)を記入して、把握に努めている。日常のかかわりの中での利用者の言動や気づき、会話、面会時の様子などを介護記録に記録して、センター方式の本人の姿、気持ちシートにまとめて一人ひとりの思いや意向の把握に努めている。困難な場合は家族からの情報を得て、職員間で話し合い、本人本位に検討している。	
25		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時にアセスメントシートを作成し、生活リズム・生活歴など、ご本人・ご家族よりしっかり聞き取り把握するように努めている。		
26		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	常に一人ひとりの生活リズムの把握に努め、状況・観察を行ない変化を見落とさないように、職員間の報告・連絡・相談を徹底し、対応方法などを記録伝達している。		
27	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月ミーティング・個別カンファレンスも行なっているが、毎日の申し送り時には必要に応じてミニカンファレンスを行い意見交換している。介護計画作成時にはご本人・ご家族の思いを聞き取り、計画作成担当者・担当職員中心に作成している。	計画作成担当者と利用者を担当している職員を中心に月1回、カンファレンスを開催し、本人や家族の意向、主治医や看護師等の意見を参考にして話し合い、介護計画を作成している。計画作成担当者は3ヶ月、6ヶ月毎のモニタリングを行い、利用者を担当している職員は6ヶ月毎にモニタリングを実施し、6ヶ月と1年毎に見直している他、利用者の状態や要望に変化があれば、その都度見直しをし、現状に即した介護計画を作成している。	
28		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケア記録に日々の様子・言動を記入し、職員間で共有しながら実践介護計画のモニタリング作成時の見直しに生かしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人・ご家族の希望や状況に合わせての外出、個別支援としての外出同行等を行うなど多機能に取り組んでいる。		
30		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近所の美容室の利用、スーパーでの買い物、幼稚園児との交流、地域の祭りに参加等、安全で豊かな暮らしを楽しめるように支援している。		
31	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人・ご家族納得の上で併設の内科医が かかりつけ医院となり、毎月の定期往診や緊急時の対応等、速やかな対応を行なっている。他病院への紹介等、適切な処置ができてご家族の信頼と安心を得ている。	事業所の協力医療機関をかかりつけ医とし、月2回の訪問診療がある。他科受診は家族の協力を得て支援している。受診結果は、面会時や電話で家族に伝えている。職員間では連絡帳で共有している。訪問看護師は週2回、かかりつけ医の看護師は週3回来訪し、日常の健康管理をしている。緊急時には管理者に連絡をし、協力医療機関の指示を受け、適切な医療を受けられるよう支援している。	
32		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護・かかりつけ医院看護師による週3回の訪問があり、その都度、入居者の体調・相談を行い必要に応じて受診ができるように支援している。		
33		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	かかりつけ医院と総合病院、母体病院との連携で早急な対応を行なっている。医療連携を行なっている訪問看護とも情報交換を行いスムーズな対応が来ている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期のあり方について、ご家族・かかりつけ医師・事業所職員にて希望・要望を取り入れ話し合いを行なっている。看取りの必要時には関係者と連携を取りながら支援を行なうことが出来る。	契約時に「重度化対応、終末期ケア対応指針」に基づいて、事業所のできる対応について家族に説明している。実際に重度化した場合は、家族の意向を聞き、主治医や看護師等と話し合い、看取りの場合は「看取りに関する指針」を基に話し合い、医療機関や他施設への移設を含めて、方針を決めてチームで支援に取り組んでいる。	
35	(15)	○事故防止の取り組みや事故発生時の備え 転倒、誤薬、行方不明等を防ぐため、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組むとともに、急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身につけている。	事故発生に備えて内部研修でAEDの使用訓練や緊急時の対応などを学び、実践力が身に付くよう継続的に勉強を心掛けている。	事例が生じた場合は、その日の職員間で改善策を検討してヒヤリハット、インシデント、アクシデント報告書に記録し、申し送り時に伝え、共有している。月1回のミーティング時に再検討し、利用者一人ひとりの事故防止に取り組んでいる。事故発生時に備えて、法人研修の消防署の救急救命法を受講している他、内部研修で誤嚥、感染症などの緊急時の対応を年4回実施しているが、全職員が実践力を身につけるまでには至っていない。	・全職員が実践力を身につけるための応急手当や初期対応の定期的な訓練の継続
36	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	施設全体で年2回の避難訓練を行いマニュアル等でも学んでいる。地域との協力体制については避難訓練に参加して頂けるよう努めている。	年1回、消防署の協力を得て拠点施設合同で、夜間想定避難訓練を実施している他、拠点施設合同で昼間想定避難訓練をしている。運営推進会議メンバーの自治会長と民生委員は、昼間想定訓練に参加している。運営推進会議で災害時の地域との協力体制について話し合い、自治会長や民生委員の連絡網への加入や拠点施設が災害時の地域の避難場所に指定されているなど、地域との協力体制を築いている。	

自己 外部	項 目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
37	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	本人の思いや希望を言いやすい関係作りを心掛けて自己決定を支援している。自分の思いを表出できない方は、表情や仕草をよく見て気持ちを配慮できるように努めている。	内部研修でパーソンセンタードケアについて学び、職員は理解して、利用者一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。個人情報の取り扱いに留意するとともに、守秘義務についても理解をし、遵守している。	
38		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中でご本人が思いや希望を表し、自己決定できるような支援を心掛けている。		
39		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	業務優先ではなく一人ひとりの生活を最優先に考え、その方のペースに合わせ希望に沿ったパーソンセンタードケアの実践を心掛けている。		
40		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人の好みの衣服を選択し着用して頂き、近所の美容院でカットして頂く。日頃の身だしなみは褒めるなどしておしゃれを認め、出来ない方へは時間を要しても出来るものを見つめながらサポートしている。		
41	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	コミュニケーションを取りながら食事の盛り付け・配膳・下膳・テーブル拭き・片付けをそれぞれ出来ることに参加して頂き、楽しい雰囲気の中で食事ができるように支援している。	三食とも拠点施設の厨房からの配食を利用している。朝食の味噌汁と御飯は事業所で調理し、形状の工夫をしているなど、利用者一人ひとりに合わせた食事を提供している。利用者は米研ぎ、盛り付け、配膳、下膳、食器洗いなどできることを職員と一緒にしている。季節の行事食(節分、雛祭り、敬老の日、誕生日)、おやつづくり(団子、誕生日ケーキ、梅シロップなど)、栗御飯、変わり御飯などの工夫をしている。喫茶店に出かけたり、家族の協力を得ての外出など、食事を楽しむことのできる支援をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量・水分量をチェックして一人ひとりの状態を把握している。栄養バランスは栄養士により管理されている。状況に応じ刻み・トロミ・おにぎりや形を変え、自力で食べていただけるように支援している。		
43		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後一人ひとりの状態や能力に合わせて口腔ケアを行っている。義歯は毎晩ポリデントを行い清潔を保っている。		
44	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	リハビリパンツ使用は原則夜間のみとし、昼間は失禁ショーツ・布ショーツ+パット・布ショーツのみにし、個々の排泄パターンに合わせ声かけ誘導を行いトイレでの排泄支援に努めている。	排泄チェック表を活用して、利用者一人ひとりのパターンを把握し、一人ひとりに応じた声かけや誘導をして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	
45		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘予防として毎朝食前に牛乳を飲んで頂いている。こまめな水分補給や運動も取り入れ自然の排泄ができるように努めている。また個々の排泄パターンに応じた緩下剤の調整も行なっている。		
46	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	午前・午後を通して入浴できる体制を取っている。個別での入浴で自分でできることはして頂いている。無理せず楽しみながら入浴出来る様に支援している。	入浴は毎日、9時30分から11時30分の間可能で、週3回はゆっくりと入浴できるように支援している。利用者の体調によっては、清拭や足浴の対応をしている。入浴をしたくない人には時間の変更、職員の交代、曜日の変更など、個々に応じた入浴の支援をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活習慣やたいちょうに応じて休息したり良眠出来るように支援している。		
48		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりが使用している薬の目的や副作用について学び服薬支援を行なっている。症状の変化・観察を行ない情報の共有に努めている。症状の変化については訪問看護師に相談している。		
49	(21)	○活躍できる場面づくり、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの生活歴や嗜好に合わせ出来ることややりたい事に参加し、喜びや楽しみを持って生きがいを見つけられるように支援している。	テレビ視聴、DVD鑑賞(動物番組など)、新聞や雑誌を読む、季節の行事(雛祭り、七夕祭り、敬老会、月見、クリスマスなど)、お茶会、パズル、二胡演奏会、お菓子づくり、花火見物、布のれん作り、雑巾、布巾縫い、かるた、シーツ交換、プランターでの野菜づくり、認知症予防体操、ボーリング、輪投げ、洗濯物干し、洗濯物たたみ、モップ掛け、配膳、盛り付け、下膳、食器洗いなど、活躍できる場面をつくり、気分転換や楽しみごとの支援をしている。	
50	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	希望に応じ近所の散歩や公用車を使用し、一年を通じて花見・紅葉見学等の外出しえんを行っている。家族の来所持にご本人との外食や墓参りに出かけたりとご家族と協力して支援している。	周辺の散歩、自宅周辺のドライブ、四季の花見(桜、バラ、紅葉、チューリップ)、彦島八幡宮への初詣、田中絹代文化館、カフェ、地域サロン、近所の美容院の利用の他、家族の協力を得ての外出、外食、墓参り、葬式や法事への出席など、戸外に出かけられるよう支援をしている。	
51		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の所持は行なっていないが、買い物支援時での支払いをしていただけるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族・ご友人等外部からの電話の取次ぎや、希望に応じ電話をかける支援も行っている。		
53	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	自然光のたっぷり入るリビングは清掃を徹底し、温度・湿度をこまめに調節している。玄関や窓辺には季節の花々を活けて季節感を採り入れている。またティータイムや団欒の時間は懐かしい唱歌やクラシック音楽などで寛いで頂いている。	広いリビングは、全面の窓ガラスからの陽ざしで明るく、家並みや関門海峡の花火も眺めることができ、季節の花や五月人形などを飾って季節を感じることができる。広い廊下やテレビの前にはソファや椅子を配置し、利用者の居場所となっている。温度、湿度、換気に配慮し、居心地がよく過ごせるような工夫をしている。	
54		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	広い廊下やロビーの各所にソファを置き、思い思いに気に入った場所で寛げるような空間作りを工夫している。		
55	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室にはご本人の馴染みの家具やご家族の写真などを飾り、心地良く安心して過ごせる空間を確保できるように配慮している。	寝具、小タンス、衣裳ケース、小卓、椅子、衣裳掛け、ソファ、三段ケース、ラジカセ、目覚まし時計、日用品などの使い慣れたものを持ち込み、家族の写真、カレンダー、習字作品、生花などを飾って、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	
56		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室・トイレ・浴室の位置をわかりやすく表示し、移動・洗面・排泄時には各自の機能に合わせた介助・助言を行い、安全で自立した生活が送れるように工夫している。		

2. 目 標 達 成 計 画

事業所名 グループホームケアタウン江の浦

作成日： 平成 30 年 10 月 16 日

【目標達成計画】					
優先 順位	項目 番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に 要する期間
1	35	全職員が実践力を身につけるまでにいたってなく、応急手当・初期対応への不安を持っている。定期的訓練や、外部研修は不十分である。	全職員が、応急手当・初期対応の実践能力を身につけるため、定期的な訓練を継続する。	内・外部の勉強会に参加し、緊急時対応の再確認を行う。 AEDは、全職員が何度も実践し体験する。 消防局の救命講習に参加する。	3年
2	36	利用者を安全に避難誘導出来る判断力・実践力に欠けている。	火災対策だけでなく、地震・水害時の避難対策の実践的能力を身につける。	災害対策のマニュアルを見直し、全職員にシュミレーションや、訓練を繰り返し行ない実践力・判断力を個々身につける。 自治会・近隣住民への協力要請の増員を目指す。	3年
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。